

2008年2月28日

内閣総理大臣

福田康夫様

憲法・平和・教育を守る

全国母と女性教職員の会

米海兵隊員による女子中学生暴行事件に対する要請

私たち「母と女性教職員の会」は、全国の母親と女性教職員が手をむすび、子どもや女性の幸せな未来を願い、平和でだれもが安心して生活できる社会をめざして運動を続けてきました。

2月10日沖縄本島中部において、在沖米軍キャンプ・コートニー所属の海兵隊員による女子中学生に対する暴行事件が起きました。1995年に起きた「少女暴行事件」の記憶がよみがえり、強い憤りと怒りを覚えます。95年以降、在日米軍の事件・事故の防止措置や教育プログラムは強化改善されたと示されていますが、機能していたのか疑わしいものがあります。また、日本政府は、再び自国の子どもや女性の人権が踏みにじられたにもかかわらず、米国政府に対する姿勢は厳しさが感じられません。

今なお、基地のある自治体では米兵による犯罪が後を絶たず、これまで多くの女性や子どもが犠牲になってきました。事件が起こるたびに日本政府は「運用改善」を唱えるばかりで、国民のいのちや人権が脅かされてきたにもかかわらず、その根本的解決に向けた日米地位協定の抜本的見直しについても踏み込んできませんでした。

私たちは、日本政府に対し、事件の捜査等にかかわる米国政府、関係機関に対する迅速な対応、被害少女および家族に対する二次被害が発生しないよう、被害者保護やケアなど人権上の配慮を強く求めます。さらに、日米地位協定の抜本的見直しと基地の早期撤去を改めて強く求めます。

以上